

# 障害者の生活と願い ②

## ● 厚労省実態調査にみる

在宅で暮らす障害者約7200人から生活実態や要望などを聞いた厚生労働省の「2016年生活のしづらさなどに関する調査」結果を読む連載2回目は、「日中(昼間)の過ごし方」についてです。

家庭内が最も多く

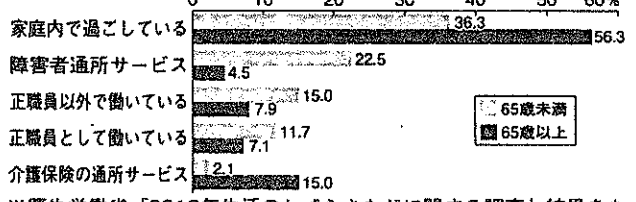
調査結果では、日中の過ごし方(複数回答)として「家庭内で過ごしている」と答えた人が最多でした。65歳未満では「3人に1人」(36.3%)、65歳以上では「2人に1人」

### ■ 日中の過ごし方

上(56.3%)が「家庭内」と答えました。(グラフ) 65歳未満で「家庭内」の次に多かったのは「障害者通所サービスを利用」(22.5%)でした。とくに、知的障害者の療育手帳所持者では43.3%で、「家庭内」(21.7%)を大きく上回りました。

65歳以上では、「障害者通所サービス」(4.5%)とともに「介護保険の通所サービス」(15%)を利用する人がめだちました。 調査結果は、在宅の障害者にとって、多くの仲間

主な日中の過ごし方～「家庭内」が最多



※厚生労働省「2016年生活のしづらさなどに関する調査」結果をもとに作成。設問は日中の過ごし方について15項目から該当するものすべてを選択(複数回答)

る人はどのくらいいるでしょうか。

65歳未満についてみると、会社などでの一般就労は、「正職員」が11.7%、「正職員以外」が15%でした。

通所施設で行う福祉的就労は、一般就労が可能な65歳未満の人を対象とした「就労継続支援A型」が2.9%、一般就労が困難な人を対象とした「同B型」が7.5%でした。

65歳未満では、「今までと違う日中の過ごし方をしたい」という人が2割程度いました。その人たちに「日中の過ごし方の希望」(複数回答)を聞いたところ、トップは「正職員」(32.4%)で、次が「正職員以外」

# 大切な通所サービス

(28.1%)でした。一般就労への期待の大きさがうかがわれました。

(つづく)